



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報
大森 海苔のふるさと館 ニュース 4号

東京海洋大学の学生と行く！

「海苔のまちを伝える」 10月25日・11月22日

全国にその歴史を誇る海苔のふるさと「大森」。そのまちの記憶をどう次世代に伝えていくか。9月からそのようなテーマのもと東京海洋大学と協働でまちを知り、伝えていく取り組みを始めました。すでに学生さんたちは本を読んだり、館の展示を見たりしながら海苔やまちのことを調べ始めています。これからは実際にまちに出てインタビューをしたりする予定です。まちで彼らに会ったら気軽に話をしてあげてください。

若い大学生の目に大森のまちがどのように映り、彼らが何を伝えていこうとするのか、今からとても楽しみです。

この成果は右の講座をつうじて皆さんと共有したいと思います。ぜひご参加ください。(文)

連続講座「海苔のまちを伝える」

元海苔生産者のお話とまち歩きで「海苔のまち大森」を再発見します。

日時①「お話し」10月25日(土) 13時～16時

②「まち歩き」11月22日(土) 13時～16時

内容①海苔のビデオ番組上映と、平林義正氏(NPO法人海苔のふるさと会理事長)のお話し。

②東京海洋大学学生の案内で大森のまちを散策し、海苔づくりをしていた頃のなごりを探します。

参加費：100円(②の保険料)

対象：中学生以上・両日とも参加可能な方

定員：先着30名

申込：10月11日から電話または窓口にて

参加者募集中 今後の催しもの

「海苔簀(す)編み体験」

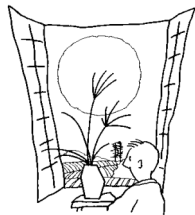
海苔つけに使う海苔すを編む体験をします。インテリアや海苔巻きに使うこともできます。

日時：10月12日(日) 10～16時

対象：小学3年生以上どなたでも

参加費：無料 定員：先着20名

申込み：電話または窓口にて



「海苔つけ体験」

元海苔生産者のお話を聞きながら、海苔づくりを体験します。自分で作った海苔の味は格別ですよ！

なお、この日はふるさとの浜辺公園など周辺で「OTAふれあいフェスタ」(11/8～9)が開催されています。

日時：11月9日(日) 10～12時

対象：どなたでも

参加費：無料 定員：50名(多数の場合抽選)

申込み：往復はがきに「住所、電話番号、参加者全員(4名まで)の氏名」を明記の上、右の宛先までお送りください。



創立臨時総会を開催

9月17日(水)

海苔のふるさと会は今年1月の設立以降、多数の方々に入会の申し込みをいただいていた。

このたび会員が一堂に顔を合わせる機会を設けようと、創立臨時総会を開催しました。

当日は約60名が出席し、終始和やかな雰囲気の中、会の趣旨や今後の活動を確認しました。その後、皆で館内の見学をしました。(文)



〒143-0025大田区南馬込5-11-13

大田区立郷土博物館 宛て

締め切り：10月17日必着

第2回 ふるはま生き物探検隊
「ボラからみるふるさとの浜辺」
8月24日(日)実施

ふるさとの浜辺にいる生き物をつうじて身の回りの環境について考えてもらう「ふるはま生き物探検隊」。講師は東京海洋大学の北見氏でした。

参加者は投網を使っ
てみずから魚を採集した後、

講座室で魚を観察し、スケッチをしました。

参加者は自分でつかまえた魚をじっくりと観察することができ、充実した様子でした。(文)



大森の海苔生産道具
埼玉の博物館で展覧会

国の重要有形民俗文化財に指定されている大田区の「大森及び周辺地域の海苔生産用具」の一部が、埼玉県の県立博物館で展示されます。

(開催中も、当館の展示はご覧いただけます。)

埼玉県立歴史と民俗の博物館

特別展「名もなき至宝

うけつがれし重要有形民俗文化財」

開催期間：10月7日～11月24日

休館日：月曜日 開館時間：9：00～16：30

観覧料：一般600円、高校・大学生300円(中学生以下と65歳以上、障害者手帳等をお持ちの方は無料)

●特別展リレートーク10月26日(日)13：30～
 大田区立郷土博物館の藤塚悦司学芸員が大森の海苔生産用具についてお話。電話にて受付、先着100名。
 会場・問合せ先：埼玉県さいたま市大宮区高鼻町
 4-219 Tel048-645-8171

体験学習会「海苔簀編み体験」
9月28日(日)実施

9月28日(日)に、「海苔簀(す)編み体験」を開催しました。

海苔簀は目立たない存在ですが、海苔づくりには重要な存在です。かつては夏から秋にかけて夜なべして作ったそうです。

当日は、親子連れから大人まで18組が挑戦し、無事に全員完成させることができました。また、大森の海苔づくりのお話を聞いたり、1か月ほどかかった材料のヨシの準備の映像を見たりしました。

海苔簀は、インテリアにしたり、海苔巻きに使ったりすることもできます。参加者の方々は、手作りの海苔簀を抱えて、笑顔で帰って行きました。

次回は、10月12日に開催します。(麻)



企画

展コーナー

「思い出の風景・海苔づくりの海と町」

9月20日～11月26日



二階の企画展コーナーにおいて、かつての海苔づくりの様子を記録した写真を展示しています。

＊ コラム

ふるさと館には元海苔生産者の方がよくいらっしゃるのので、色々な話を聞くことができます。今回は海苔簀について聞いたことを書きます。海苔簀は約3年間使うことができるので、毎年3分の1ほどを新しい簀に変えていました。その年に新しく作った簀を「新簀(あらず)」、2年目の簀を「中簀(ちゅうず)」、3年目の一番古い簀を「古簀(ふるず)」と呼び、新簀は葎の油分が多いため海苔のはがれが良いのですが、古簀は油分が少なくはがれにくいいため、自分で油を塗り、はがれを良くしたそうです。

皆さんも色々な話を聞きにふるさと館に来てください。(りょう)

特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館 ニュース」4号

平成20年10月9日発行
 編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会
 連絡先 東京都大田区平和の森公園2番2号
 TEL 03-5471-0333
 FAX 03-5471-0347